

文化

Culture |

八戸から教育再生に挑む

大谷真樹氏に出会ったのは、2003年、私が八戸市東京事務所長に就任して間もなくの時だった。インターネットでのリサーチシステムを開発し大成功した会社「インフォプラント」の社長で、ITの性質上、東京だけに事務所を構えている必要がないと考え、地方の事務所移転先を模索していた。その移転先の候補の一つが出生地の八戸だった。

この開発で彼は、ゲームやアマゾンの創業者が受賞した起業家のアカデミー賞といわれる「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・スタートアップ部門優秀賞」を受賞している。出会ってからの行動は、八戸進出の可能性がある社長等の紹介

大谷真樹著「世界で学べ」刊行に寄せて

風張知子



やIT社長連集会の八戸開催提案など、八戸愛にあふれており、八戸特派大使をお引き受けしていた。

そして、私の八戸異動内定を報告した06年2月のその日に八戸進出を決定してくれた。八戸に進出した後も、IT関連の多くの社長を八戸に招いて講演会を開催、横丁、朝市、種差等の案内や懇親会など私費でもてなした。八戸進出を促した。

その結果、マネックス証券やヤフーをはじめ誘致企業17社、雇用は1300人を超えるという結果につなげた。

インフォプラントをヤフーに売却した後は、八戸学院大総合研究所長等を経て、12年から6年間、同大学長を務めた。この間、光星学院高を八戸学区、院光星高に名称変更して甲子園等では「八戸」が連呼されているが、八戸の知名度アップを意図

してのことと聞いていた。また、「10年間で100人の起業家を育てる」との思いから起業家養成塾長となり、「挑戦する権利と失敗する自由」という教えで多くの起業家を輩出した。

居住地の神奈川県藤沢市と八戸市を毎週通うバリエーターは、13年に世界で最も過酷な自転車大会で日本人初完走の快挙を成し遂げたストイックなアスリート魂からきているかもしれない。さまざまな分野に挑戦し続け、八戸で経済界から教育界へ転じ、そして今日本の未来を変える若者のために怒りにも似た思いで、鎖国状態の日本の教育界に挑もうとしている。

八戸の人たちに伝えた世界60カ国以上の海外を訪問した大谷氏は八戸を、自然、食、文化など素晴らしい地域資源を有した群を抜く豊かさを誇る元気な町であると言う。そんな八戸の土壌が、彼の愛国心、アントレプレナー精神からくる教育改革意欲をかき立てたかと思うとうれしくなる。

令和と教育維新になるかもしれない、10年後の世界を変える人を育てるための著書「世界で学べ」をまずは八戸の人たちに読んでほしい。

エネルギーがみなぎっている、多くの人々をよみがえらせると言われている種差で生まれた大谷氏が、病んだ日本の教育を再生しようとしているのは、必然だとも感じられる。

(かざはり・ともこ) 大谷真樹氏に八戸市常務取締役、元八戸市長、元八戸市まちづくり文化スポーツ観光部長、同市在住

※「世界で学べ」はザンルクス発行、1620円